



9月(長月ながつき)になりました。長月の由来は「夜長月(よながつき)」から来ているそうです。

(パラマス校の秋空) パラマス校内のスキの穂も秋の趣を漂わせ、空の雲もすっかり秋の様相を呈しています。

これから冬至(12月22日)まで、夜が日に日に長くなっていきます。



秋の夜長は、家族団らんのひと時や読書、勉強にもってこいの季節です。また、食欲の秋、運動の秋、芸術の秋と、秋は様々な活動に適した過ごしやすい時期でもありますね。

ワッショイ!

今年もワッショイ! 夏まつり (幼児部)

ワッショイ!



(お神輿 ワッショイ ワッショイ) 8月29日、幼児部恒例の夏祭りが行われました。

午前10時過ぎ、中庭の芝生広場に

集合して、お神輿と盆踊りを楽しみました。

お神輿はアイスクリーム、鶴、くじらの3種類を6人～8人一組で年長さん全員が交替でやぐらを2周、ワッショイワッショイと練り歩きました。その後、幼児部全員で「もったいないばあさん音頭」を元気よく踊り、2回目はお父さんお母さんと一緒に踊りました。

今年の夏祭りは、子どもたちが選んだ赤・青・黄・緑の色鮮やかな法被を着て、華やかな祭りの雰囲気さらに盛り上げていました。

11時から、オーデトリウム前のホールで「縁日」をテーマにヨーヨー釣り、的あて、妖怪トンネル金魚すくいを楽しみました。



(見て見て、ヨーヨー釣れたよ)

いずれのコーナーも子どもたちの歓声が絶えることはありませんでした。

真っ暗にしたオーデトリウムを使った妖怪トンネルでは、入り口でお友だちの手をしっかりと握りしめ、「こわいかなあ?」「こわそー!」と口々に話しながらこわごとと中に入っていました。



(妖怪トンネル)

「縁日」終了後、子どもたち全員を集めて感想を聞く場面で、「妖怪トンネルで泣いちゃった人?」という先生の質問に、多くの子どもたちが「ハイ」と正直に手を



を挙げていました。その素直で可愛い仕草に保護者から笑いと拍手が起こりました。

ボランティアでお手伝いした(的あて ねらって、ねらって) いただきました多くの保護者の皆さま、ありがとうございました。

初等部2年 授業研修



(2年生の国語授業)

8/29の2・3・4校時初等部2年の教員3名の授業研修を実施しました。

授業は、各担任が予め作成した指導案に沿って行い、その授業を管理職(校長、

教頭)及び同学年の教員が参観しました。

放課後の研修会では、授業の達成状況から、説明、指示、板書、発問等の指導の手立て、子どもたちの理解度等々について研鑽を深めました。

この研修制度は初等部・中等部の全教員が行い、指導力の向上に役立っています。今年度は、6月に初等部の1年、3年が実施し、今後12月にかけて学年毎に実施する予定です。

知識偏重から主体的思考へ！

1 日本の教育の大改革が始まる！

昨年12月に出された「中央教育審議会」の答申は今までにない画期的な提言をおこないました。

その概要は、知識偏重から主体的に考え行動できる力の重視です。以下、少し詳しく述べてみます。

2 なぜ改革か？日本の3つの危機

これからの日本は、

①生産年齢人口の急減

②労働生産性の低迷

③グローバル化・多極化



という荒波に挟まれた厳しい時代を迎える。そして、この流れは大人が予想するよりもはるかに速く進み、将来は職業の在り方も今とは様変わりしている可能性が高い。

このような厳しい時代を乗り越え、子どもたちが希望に満ちた未来を歩めるようにするために、国は新たな時代を見据えた教育改革を「待ったなし」で進めていかなければならない。

3 これからの学力三要素

このような危機を乗り越えるための学力として、

①「知識・技能」

②「思考・判断・表現」

③「主体性・多様性・協同性」

を身に付けていかなければならない。

(従来の③は「関心・意欲・態度」でした。)



4 大学入試センター試験を廃止

このような学力の育成状況を測るために、大学入試センター試験を廃止して新たに「大学入学希望者学力評価テスト(仮称)」を導入する。このテストの特色は、

- ① マークシート方式(選択式)だけでなく記述式の回答方式を導入
- ② 年に1回だった試験を年に複数回実施

③ 1点刻みの評価を多段階評価へ

④ 英語は、真に使える英語を身に付けるために、四技能(読む、書く、聞く、話す)を総合的に育成・評価し、民間の TOEFL や TOEIC 等の試験を活用する。(H27年度の国家公務員試験から英検、TOEFL TOEIC で高得点保持者に点数加算措置を実施しています。)

以上を大まかに言えば、知識だけの試験から、総合的な英語力と「思考・判断・表現」の学力を重視し、採点幅を広く取って、挑戦の機会を増やす試験制度になるということです。

また、センター試験だけでなく各大学の入学試験も「思考・判断・表現」の学力を測る内容とすることが検討されています。

5 実施年度は、2020年度(現在の中学1年生)

この新たな「大学入学希望者学力評価テスト(仮称)」において、文部科学省は記述式問題のコンピューター採点支援を検討しており、2020年度からは数十文字、2024年度(現在の小3)からは長文の記述式問題に対応できるようにする予定です。

(タブレット端末等で受験する方式も検討中)



6 具体的な対応策

今回の改革は、海外で学ぶ子どもたちにとって、「英語」に関しては相当有利に働きます。しかし、日本語に関しては従来のように短期間で知識を詰め込む方法は通用しなくなります。

具体的な対応策としては、

①語彙力を高める

教科書の語句の習得。本や新聞などを読む習慣。

②思考力・判断力を高める

普段から身の回りでおきている物事や社会的事象に関心を持ち、様々な意見を参考にして、自分なりの考えを持つ。

③表現力を高める

友だちや家族等と話し合うことで、自分の考えを深めると共に、「始め→中→終わり」の読みやすい文章として、少し長文で表現する練習を積み重ねる。

(参考文献:文部科学省ホームページ)

